

無料PDF | 器械出し看護師が意識したい視点まとめ

記事の内容を、現場で見返しやすい形に整理しました。

器械出しは、ただ器械を渡すだけの役割ではありません。
先読み・視野・動線・落ち着きをどう整えるかで、手術の進み方はかなり変わります。

まず押さえてほしい9つの視点

1. 解剖・術式を理解する

今どこを操作していて、次に何が必要になるかを読む土台です。器械の名前だけではなく、流れまで理解しておくで先読みしやすくなります。

2. 『先読みして準備する』を意識する

言われてから出すだけでは一步遅れます。毎回の手術で少しずつ『次はこれだな』を積み重ねます。

3. 執刀医の目線に近づく

自分が手術しているつもりで、何をしたい場面かを想像します。同じ術者を重ねて担当すると癖や傾向も見えてきます。

4. 術野だけでなく全体をポーッと見る

術野・執刀医の手・助手・外回り・麻酔科まで、視野を狭くしすぎないことが大切です。

5. 器械台の配置と手の動線を短くする

よく使う器械は近く、使用頻度が低いものは遠くへ。『足を一步出さないと取れない』は遠いと考えます。

6. 音をガチャガチャさせない

器械の扱い方の雑さは、音に出ます。静かに扱えることも立派な技術です。

7. 執刀医を支える立ち位置を忘れない

器械出しは前が出る役ではなく、手術を止めないための土台です。自分が主役になりすぎない姿勢が大切です。

8. 緊急時に目立つより、平時に崩れない

本当に強いのは、慌ただしい場面でも『何事もなかったように』進められる準備と落ち着きです。

9. 渡し方は『優しく、しなやかに』
速さだけでなく、相手が受け取りやすい渡し方を意識します。テンポ・タイミング・雰囲気まで含めて器械出しです。

器械出しで迷ったときのチェック

手術前

術式の流れをざっくり言えるか
今回の術者の癖を思い出せるか
よく使う器械を近くに置けているか

手術中

術野だけでなく全体を見られているか
音や動きが慌ただしくなっていないか
「次に必要なもの」を一步先で考えられているか

手術後

今日の器械出しで通じた場面・遅れた場面を言葉にできるか
次回に活かす気づきを1つ残せたか

ひとつこと

器械出しは、最初から全部できる仕事ではありません。
でも、解剖・先読み・視野・動線を少しずつ積み重ねると、確実に見え方は変わっていきます。
『ただ渡す』から一步進みたいときに、時々見返してもらえたら嬉しいです。

本PDFは、記事本文をもとに要点を整理した補助資料です。